

令和7年度 千葉県における「きんめだい太平洋系群（千葉県銚子沖）」に係る資源管理協定の取組効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるキンメダイの漁業実態（銚子沖漁場）

銚子沖漁場では、銚子市漁協に所属する小型船 35 隻が立縄漁法によりキンメダイを漁獲している。キンメダイの立縄漁法は自由漁業であるが、漁業者は、銚子市漁業協同組合外川支所漁業者協議会を組織して、同漁場におけるキンメダイの資源管理と操業秩序の維持を目的とした操業規約を自主的に定め、これに従って操業を行っている。漁場には「台形場」と呼ばれる区域とその沖側が禁漁区に設定されており、台形場では周年、沖側では8～10月の3か月間で操業禁止となっている。1隻あたりの乗組員数は1～3人である。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（立縄漁業のCPUEで1日1隻当たり70キログラムを上回る資源水準）を維持する。

②該当する資源管理協定

「きんめだい太平洋系群（千葉県銚子沖）」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、1漁協所属の約35名がキンメダイを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考
銚子市	◎

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

小型魚の再放流（銚子沖全長25センチメートル以下、尾叉長20.5センチメートル以下）、針数・縄数・操業時間の制限、禁漁区、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。また、漁業者と千葉県水産総合研究センターとの共同調査による標識放流調査なども実施している。（取組一覧は、次ページ表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
キンメダイ立縄漁業	◎漁具の制限	縄数の制限（各船で乗組員数+1まで）	
	◎漁法の制限	樽流漁法の禁止	
	◎その他	禁漁区の設定：台形場での操業禁止（周年）、台形場沖での操業禁止（8～10月） 休漁日の設定：銚子市漁協外川支所漁業者協議会が定める休漁日 定期休漁日：毎週日曜日及び祝日 操業時間の制限：夜間操業禁止、3時間操業（時期ごとに開始時刻と終了時刻を規定） 漁具の制限：縄毎の釣針数1回目60本／縄以内 小型魚の保護：全長25センチメートル以下または尾叉長20.5センチメートル以下の再放流 等	

◎ 協定に記載されている取組

（3）資源管理の取組状況

千葉県銚子沖漁場における漁獲量は、1995～2007年にかけて増加し、2007年には約854トンとなった。その後減少したが、2016年以降は450～500トン程度と横ばいになっている（図1）。県の令和7年(2025)度資源評価では、銚子沖漁場については、現在の資源動向は横ばい、資源水準は高位となっている（図2）。協定参加者による検証（自己点検）では、漁獲量及びCPUEは増加と判断されていた。資源評価の資源動向とは異なる結果だが、これは2016年以降に資源状況が好転し、近年は高水準となっていることが要因と考えられるため、資源評価と自己点検の結果は概ね一致したと考えてよいと思われる。また、魚価（単価）は上昇していると判断されている。

また、県では関係機関と連携し、一都三県（千葉・東京・神奈川・静岡）の漁業者による小型魚保護の強度を変えた複数のシナリオで、加入量の不確実性を考慮した親魚量の将来予測を行い、小型魚保護の効果推定を実施した。将来予測の計算及び各種設定は、令和6（2024）年度キンメダイ太平洋系群の資源評価（亘ら 2024）の方法を用いた。その結果、現状の漁獲係数では親魚量の平均値は増加するが、保護を緩めた場合には減少するという予測結果となり、現在実施されている小型魚保護の取組は資源の維持・増大に貢献していることが示唆された（図3）。

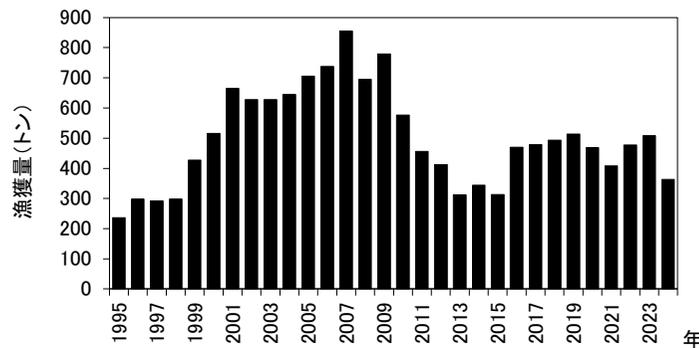


図1 銚子沖漁場におけるキンメダイ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

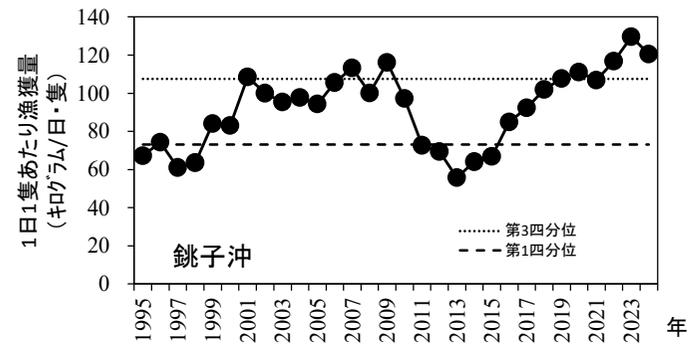


図2 銚子沖漁場における立縄漁業による1日1隻あたり漁獲量（キログラム/日・隻：CPUE）の経年変化（千葉県調べ）

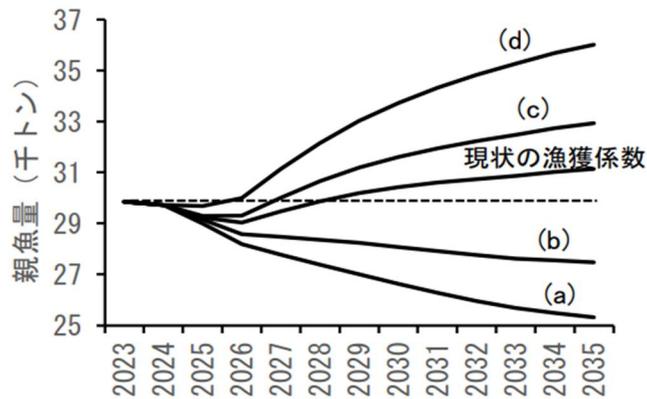


図 3 現状または各シナリオの漁獲係数が続いた場合の将来予測における親魚量の平均値の推移。破線は 2023 年の親魚量。
 (漁海況旬報ちば No. 2025-26)
 ※小型魚保護の取組により 4 歳魚以下の漁獲圧が低く抑えられていることから、以下のシナリオで試算されている。
 (a) 4 歳魚以下を 5 歳魚と同じ漁獲圧で漁獲
 (b) 3 歳魚以下を 4 歳魚と同じ漁獲圧で漁獲
 (c) 全海域で 3 歳魚以下を漁獲しない
 (d) 全海域で 4 歳魚以下を漁獲しない

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

銚子沖漁場におけるキンメダイについては資源評価で資源水準が高位で、自己点検でも取組の効果があると判断されており、小型魚保護については親魚量の増加に資することが客観的に示されたことから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組は資源維持の維持・増大につながっていると考えられる。このため、現行の取組を継続していくことが重要であり、併せて今後の資源状況や海洋環境等の変化を注視し、状況に応じた柔軟な対応をしていくことが望まれる。